

インフラビジネス レポート2023 vol.2

事業開発／運営／提携／投資の最新動向 注目プレイヤーの投資・収益分析——海外企業編



■ 著者:インフラビジネスパートナーズ共同代表 平島寛、菅健彦／三井住友トラスト基礎研究所 浅川博人／日経不動産マーケット情報 瀬川滋 ■ レポート:A4変型判、314ページ ■ 2023年6月23日発行
■【書籍のみ】価格:198,000円(10%税込)、ISBN:978-4-296-20236-2
■【書籍とオンラインサービスのセット】価格:297,000円(10%税込)、ISBN:978-4-296-20238-6

海外注目プレイヤーの投資・収益分析

インフラ企業・投資家27社を選定。企業戦略や投資動向を解説

政策・技術・投資トレンド

インフラビジネスの最新動向を解説

主要インフラプロジェクト・ファンド調査

コンセッション&洋上風力発電の進捗状況、主要ファンドの目的や投資家の属性をレポート

注目事業スキーム研究

政府が拡大目指す「ウォーターPPP」。先行事業の成果と課題を分析

市場将来予測

市場規模や戦略立案に役立つデータを整理

リスク・トラブル95事例

リスクの5W1Hを理解し、低減・回避策を知る

拡大する400兆円・成長市場での成功に必要な情報を凝縮 さらに、注目すべき海外勢の動きもレポート インフラビジネスの最新動向が掴める一冊です

インフラビジネスは国内外から資金が流れ込む、有望な成長領域です。洋上風力発電や水素・アンモニアサプライチェーンといった「グリーンインフラ」や、データセンター、通信基地局などの「デジタルインフラ」の開発が急務になっています。これらは企業にとって収益拡大の絶好の機会であり、取り組みを通して社会課題の解決にも貢献できます。本レポートは、インフラビジネスに携わる方が「今、知っておくべき」、政策や投資のトレンド、注目事業の最新動向などを1冊に凝縮した好評レポート「インフラビジネスレポート2023」の続編です。2022年12月に発行した前作を最新情報にアップデートしたほか、海外の注目プレイヤー27社を取り上げ、大型買収による業容拡大の動向や、売上・収益情報、投資戦略などを分析・解説しています。事業機会や投資機会の発掘、成長市場への挑戦に、ぜひご活用ください。

▶ 関連レポートをぜひご活用ください。
グリーン・デジタル社会をつくるインフラ事業構築&投資戦略
有望領域／事業スキーム／収益モデル・リスク分析／市場予測
詳細は本カタログ76、77ページをご覧ください。

▶ 前作も好評発売中! 2022年11月までの動向を収録
インフラビジネスレポート2023
事業開発／運営／提携／投資の最新動向
● 本作だけの掲載プロジェクト
愛知有料道路コンセッション／秋田洋上風力発電
● 本作だけの掲載企業
日本工営／ジャパン・リニューアブル・エナジー／JTOWER／年金積立金管理運用独立行政法人

目次

第0章 エグゼクティブサマリー インフラビジネスの可能性

0-1 なぜ今、インフラビジネスなのか
● 成長と社会貢献の一举両得
● インフラビジネス成功の要件

0-2 最新情報のキャッチアップが欠かせない
● 追い風吹く市場、変化は激しい
● 知っておくべき情報を収集・選別

第1章 政策・技術・投資トレンド

1-1 政策／市場展望
● インフレ局面で発揮されるインフラのディフェンシブ性とインフレ感応性
● 政策／市場展望のニュースダイジェスト

1-2 PPP／PFI／コンセッション
● 出番待つコンセッション事業候補
● 政府が奨励するPFI民間提案のチャンスとリスク
● 改正PFI法の実務への影響
● 「PFI事業化可能性調査の前段階からサポートする」
● みやぎ型管理運営方式の水道水「濁度上昇事故」の波紋
● PPP／PFI／コンセッションのニュースダイジェスト

1-3 グリーン／エネルギー
● インフラを発電所に変える「ヘロプスカイト太陽電池」実装への道
● 洋上風力発電事業の公募開始、浮体式を展望した企業買収・提携の動きも
● 水素・アンモニアの需要拡大とサプライチェーン構築
● グリーン／エネルギーのニュースダイジェスト

1-4 デジタル／スマートシティ
● 投資対象としてのスマートボールの可能性
● 東京圏に集積するデータセンター、地方への分散が課題
● デジタル／スマートシティのニュースダイジェスト

1-5 ファンド／ファイナンス
● 脱炭素系ファンドへの資金流入続く、風力や水素へと投資多様化
● ファンド／ファイナンスのニュースダイジェスト

1-6 経営／戦略
● JR東日本と東急不動産HD、「再エネ開発ノウハウ×土地・建物資産」
● 大和エナジー・インフラ、キャピタルリサイクリングへの取り組み
● 経営／戦略のニュースダイジェスト

1-7 海外／グローバル
● 米ベンシルベニア州で6橋架け替えのコンセッション事業
● 豪インフラ投資会社Plenary Groupと日本企業がパートナーシップ
● デンマークCIPが洋上風力などの再エネからブルーアンモニアまで取引活発化
● 独PATRIZIA運用ファンドがイタリア道路照明会社、スペイン通信会社を買収
● 海外／グローバルのニュースダイジェスト

第2章 注目事業スキーム研究

2-1 須崎市下水道コンセッション
● 供用中の管きょに運営権を初めて設定
● 経費回収率16.7%、「下水道事業の継続は困難」
● 要求水準とリスク分担
● 付帯事業と任意事業

第3章 インフラプロジェクト・インフラファンド調査

3-1 コンセッション事業
● 2023年4月時点で42事業が進行
● 不調になったコンセッション事業も

3-2 インフラファンド
● 金融庁届出者リストに見る主なインフラファンド
● 主要ファンドの目的と投資家の属性

3-3 洋上風力発電事業
● 全国の再エネ海域や港湾区域で19.5GWの計画・運転

第4章 海外注目プレイヤーの投資・収益分析

4-1 全体動向
● 大型買収で業容拡大するストラテジックインベスター
● インフラ資産が1年で3400億ドル増のフィナンシャルインベスター

4-2 総合インフラサービス事業者
● VINCI(フランス):エネルギー会社を買収して売上高600億ユーロ超に
● Bouygues(フランス):売上高138億ユーロのエネルギー会社を獲得
● ACS Group(スペイン):コンセッション事業子会社が増益に貢献
● Ferrovial(スペイン):空港や有料道路事業を相次いで売買
● Transurban(豪州):道路運営で売上高34億豪ドルを確保

4-3 グリーン／エネルギー事業者
● Orsted(デンマーク):洋上風力が新規受注含め22GWに
● Iberdrola(スペイン):40GWの再エネ発電施設を保有
● RWE(ドイツ):洋上風力で5~9%のIRR目標
● SSE(英国):丸紅とともに大規模浮体式洋上風力
● Enel Green Power(イタリア):年間5GWの再エネ導入
● NextEra Energy(米国):2026年までに最大42GWを建設
● Veolia Environnement(フランス):水処理などの同業他社を買収

4-4 デジタルインフラ事業者
● American Tower(米国):25カ国に22万の通信サイト
● Crown Castle International(米国):通信インフラをリース
● Equinix(米国):データセンターで増収増益
● Digital Realty(米国):三菱商事とも合併事業

4-5 ファンド運用会社
● Macquarie Infrastructure & Real Assets(英国):インフラに200億豪ドル
● Brookfield Asset Management(カナダ):インフラと再エネの上場ファンド
● KKR(米国):日立物流の買収を完了
● Global Infrastructure Partners(米国):870億米ドルを運用
● IFM Investors(豪州):年金基金など640超の投資家

4-6 機関投資家
● CPPIB(カナダ):インフラで10.8%のリターン
● CDPQ(カナダ):再エネの成長で好成績
● OMERS(カナダ):約2割をインフラ分野に投資
● CalPERS(米国):インフラ含む実物資産で24%のリターン
● CalSTRS(米国):リスクに応じて3~9%のIRR目標
● AustralianSuper(豪州):非上場インフラにも直接投資

第5章 データで読み解くインフラ投資市場

5-1 市場将来予測
● インフラ投資に関わる全体潮流
● グリーン・エネルギー分野の普及目標と市場規模
● デジタル・スマート・モビリティ分野の普及目標と市場規模
● 2050年カーボンニュートラルに向けたGX投資

5-2 市場関連データ
● 再エネ電源のFIT、FIP価格と想定IRR
● 再エネ全体は2025年初頭に、太陽光は2027年に石炭を抜く
● 世界の風力発電は年平均15%、136GWの成長
● 投資家が保有・運用するインフラ資産は1.28兆米ドル

5-3 リスク・トラブル事例一覧
● 国内外の主なリスク・トラブル事例95件
● 事例に応じたリスク低減・回避策